

聖隷おおぞら療育センター
所長に就任して
所長 木部 哲也

2014年12月から所長の職に就くことになりました。木部哲也と申します。皆様よろしくお願ひ申し上げます。自己紹介を兼ねて少し思うところなどをお話ししたいと思います。

私は、1987年に大学病院で小児科医として研修を始めました。当初は早く一人前になるうとひたすら臨床に没頭する毎日でしたが、様々な難病を持つこともたちに関わるうちに医学研究に興味を持ち一時期分子遺伝学の研究に従事しました。その後1年半ほどアメリカに研究留学することができました。研究を通じて学んだことは「常に疑う」ということでした。「もつともらしいことには嘘が多い。」と何かの本で読んだことがあります。特に医療の現場では10年前に正しいとされていたことが今日全く否定されてしまうことはよく経験されます。よく引き合いに出されるのが傷の処置で、以前は消毒薬でこすり洗っていたものが今は消毒せずなるべく湿潤状態

を保つというように変わっています。そのような経験から「権威に頼らない」「流行を追わない」「自分の頭で考える」ということを常に意識しながら課題に取り組むよう心がけております。

また、研究以外にも多くのことを学びました。特に印象深かったことは学生や初学者の意見を非常に大切にしており、学生であっても教授であつてもディスカッションとなればみな対等という意識が強く働いていることでした。様々な個性や価値観を受け容れ、個々のエネルギーを最大限に引き出す組織づくりは見習うべき点があるように感じました。

縁あつて1999年から聖隷三方原病院で小児科医として働くようになり、それ以来おおぞら療育センターとは主に医療的な面で関わってまいりました。その間に、顧問となられた前所長の横地先生の指導のもと、重症心身障害児(者)の各種呼吸障害や栄養問題への対応、疼痛ケアや睡眠

障害、在宅医療の問題、さらには終末期医療の問題等々、教科書がほとんど役に立たない分野で「患者さんから学ぶ」という基本の大切さを改めて学びました。

今回、所長に着任しましたが、事業内容や社会制度の推移など一から学ぶ状況です。これまでの経験を活かし、皆様のご指導を受けながら、様々な職種のもつ視点をスナップと共有しながら地域から望まれる施設となるよう努力していきたいと思ひます。



当施設の活動で使用している素材を紹介しします



絵本「だるまさんが」です。6つのだるま、1つのだるまのページが繰り返される、絵と語り楽しい本です。



「だ・る・ま・さ・ん・が...どてつ」「だ・る・ま・さ・ん・が...びろーん」というように、「だ・る・ま・さ・ん・が」のあと、ページをめくる間に、次に出てくることばをジッと待って、集中して聞いています。

苦情解決委員会より

2014年7月～9月
苦情はありませんでした

	11月	12月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	110名 (576日)	100名 (577日)
日中一時支援利用者数 (延べ利用日数)	4名 (10H)	2名 (9H)
ボランティア参加人数 (グループ数)	16名 (4グループ)	15名 (4グループ)
実習者数 (グループ数)	0名 (0グループ)	0名 (0グループ)